

1. 目的

映像やシミュレーション、モデル実験ではなく、実際に自然の中に身を置き、野外巡検をすることで、体感できることがたくさんある。SSHとして研究者から直接現地で大地の営みや植生について学ぶことで、生きた知識の習得や調査方法の習得を行うことが目的である。

2. 概要

2.1 野外巡検の企画について

前任者から引き継いでから11回目の巡検となった。初回は、今から13年前の実施で、途中、新型コロナウイルス感染症の影響で2年ほど実施ができなかった。今回は、初日に「糸魚川」へ向かい、2日目と3日目を「戸隠」の巡検に当てた。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、今まで制限されていたことが解除された影響か、20名の募集に対して15名の参加者と過去最低の人数となった。特に後期生が少なく、4・5年の男子が誰も参加しなかったというのも初めてである。

2.2 今年度の野外巡検の概要

【第1日目】8月23日(水) 主な巡検の内容：

- ①レクチャー「現館長の竹之内 耕先生 初」
- ②フォッサマグナミュージアム館内の見学
- ③糸魚川―静岡構造線の観察、枕状溶岩の観察
- ④柱状節理、放射状節理の観察
- ⑤明星山(石灰岩)の観察
- ⑥小滝川ヒスイ峡でヒスイの観察
- ⑦親不知ピアパークで102トンのヒスイの原石を観察、海岸でヒスイを探す。

【第2日目】8月24日(木)

- ⑥鬼無里での地層、堆積構造の観察(11年振り)
ケスタ地形、ポットホール、千畳敷岩、リップルマーク、鏡肌、サンドパイプ、ラミナの観察
- ⑦奥裾花ダムの見学
- ⑧鬼無里ふるさと資料館の見学

【第3日目】8月25日(金)

- ⑨小石川紫友会の土地を散策
- ⑩裾花川右岸で化石採集
- ⑪戸隠地質化石博物館の見学

①～⑤：フォッサマグナミュージアム館長 竹之内 耕 氏

⑥～⑪：戸隠地質化石博物館学芸員 田辺 智隆 氏



102トンのヒスイの原石 見かけの傾斜を寝転んで確認

(親不知)

(鬼無里)

2.3 今年度の巡検のトピックス

フォッサマグナミュージアム元館長の宮島氏の都合がつかず、初めて現館長の竹之内氏に案内をしていただいた。同じ露頭でも、説明の切り口が異なり、新鮮であった。糸魚川―静岡構造線の露頭は、昨年よりも浸食が進んでいた。

毎年、夏場に道路工事が入り、実施できていなかった鬼無里の巡検を11年振りに行うことができた。戸隠地質化石博物館の元館長田辺氏の働きかけによる。

当日は、工事を中断してもらい、ほとんど貸し切り状態での巡検となった。日本のいたるところで、露頭が護岸され、観察することが困難になっているが、この鬼無里では、あえて護岸せずに露頭を保存し、地層や堆積構造を確認できるめずらしい場所である。今回、夏場を実施することができて、とてもありがたかったし、生徒にとっても貴重な体験をすることが

成果と課題

リピーターが2年、3年、5年にいたが、特に2日目は、昨年とまったく違う場所での巡検ができ、飽きさせないものとすることができた。反面、3日目に無理に化石採集を入れてもらい、博物館での化石のクリーニングは実施できなかった。本校でもクリーニングができる環境ではあるが、夏休みの終わりに実施した生徒は数人であった。プログラムの何を優先するか、難しい課題である。

毎年、JSTの手続きに時間がかかり、期末考査前後の募集、1学期ぎりぎりの参加者決定となってしまう。参加者の減少という初めての状況を鑑み、次年度は、詳細は後回しとして早めの募集をしようとする。また、生物の野外実習が入ってきたこともあり、2泊3日の費としては、とても高いものになっている。新幹線代を負担して欲しいものである。